

| 研究課題名：化学物質の火災爆発防止と消火 (平成18年4月～平成23年3月) | | 評価結果 | | | | 総合評価 (平均点) | |
|---|--------|---|------------|---|----|---------------|--|
| | | A | B | C | 合計 | A (0.91) | |
| | | 10 | 1 | 0 | 10 | | |
| 評価 | 委員コメント | | コメントに対する回答 | | | | |
| 1 | A | <p>消防研究所にふさわしい研究テーマであると思うが、サブテーマのタイトルは一般的に過ぎ、やや漠然とした印象を受ける。 たとえば、サブテーマⅠは単に「化学物質等の危険性・・・」というより、「化学物質等の火災爆発危険性・・・」としたほうがよさそうだし、サブテーマⅢは、化学物質のタンク火災に限定した研究のように思われるため、タイトルは「化学物質タンク火災の消火に関する研究」とする方が適切ではないか。</p> | | <p>・より具体的に内容が判るようサブタイトルの変更をする。</p> | | | |
| 2 | A | <p>「リサイクル資源化対象物質」とか「リサイクル物質」とか同じことを違う言葉で表わさない努力をしてほしい。RDFとRPFと言われても、どこが違うかわからない。消防研究センターが音頭をとって、わかりやすい統一した言葉を使うようにしてほしい。外国の石油会社が大きな興味を示しているのなら、日本の会社も同じなのではないか。研究資金のサポートが期待できないのか。</p> | | <p>・ご指摘の点、了解し、「リサイクル物質」に統一する。また、RPF、RDFといった専門用語は出来るだけ説明を加えることで対処したい。国内の石油会社は、石油連盟をとおして、話しかけているが、余り、防災研究に資金を出すような例はない。しかし、機会を見て話かけはしてみる。</p> | | | |
| 3 | A | <p>特殊災害への対応策を講じるためにも、危険性評価ができていないと先には進まないもののように思います。したがってこの研究も緊急性・現実性の高いものと評価します。 しかし、その研究にいくら複雑なものが多いとしても5年も掛けていたのでは、その間にも特殊災害あるいは大規模災害による危険は起こりうることを考えますとできるだけ早く実効性のあるものとして頂きたいと考えます。緊急性を有するものとして、経済産業省、環境庁などとも連携して予算的にも人員的にももう少し力を入れていくことはできないのでしょうか。研究2、3、4は大きく一つのものとして時間的進行度なども勘案して進めて頂きたいと思います。</p> | | <p>・研究内容を整理して、効率的な研究を行い、研究期間の短縮に努めたい。 ・また、成果は出来るだけ、研究途中の段階でも出すようにする。 ・振興調整費等、他省庁と連携して獲得する努力をしていく。</p> | | | |
| 4 | A | <p>工業技術の発展と共に絶えず新しい火災・爆発の危険物質が世の中に出てくる。これらの危険性の把握と消火技術の研究は重要である。</p> | | <p>・研究の重要性を指摘頂きありがとうございます。</p> | | | |
| 5 | A | <p>本研究の成果が、消防機関をはじめ関連企業等の火災予防及び安全対策の指針となることを期待する。</p> | | <p>・ご理解いただきありがとうございます。</p> | | | |

| | 評価 | 委員コメント | コメントに対する回答 |
|----|----|--|--|
| 6 | B | 一言で「化学物質」と言っても、範囲が広すぎます。「特殊災害に対する安全確保」や「危険物施設の安全性向上に関する研究」と研究テーマが“かぶる”部分もあり、研究する化学物質に是非優先順位を付けて欲しい、例えば、「バイオ燃料」など今日的な化学物質に焦点を当てた研究をして欲しいと考えます。 | <ul style="list-style-type: none"> ・見かけ上重複する部分もあるが、高い化学知識を基に化学物質の火災危険性を明らかにし、その防災を進めるのが、本研究の主たる目的。 ・化学物質として守備範囲は広いのですが、「バイオ燃料」の防災は、石油価格の高騰や地球環境問題を考えた場合、ここ数年、優先的に進めたいと考えている。 |
| 7 | A | 様々な反応性物質の存在やそれによる予期せぬ事故の発生、および石油タンク火災における消火の困難性は、昨今わが国においても現実化したところであり、目標達成に向けて精力的に研究が進められることを期待する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ご理解いただきありがとうございます。 |
| 8 | A | <p>バイオ技術の変遷にそって、新たな物質による災害が考えられる。そのロードマップの提示も必要だろう。</p> <p>I. 予防と防災の視点からの危険性はどうか分かり易く示すことも大切だろう</p> <p>II. 今後大いに発展されるべき課題である</p> <p>III. 大容量泡放水砲はスケール上から期待される消火手段である。大震災時(M8~9)のオーバーフロー対応も考えて行く必要もあろう。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・バイオ物質の出現は、企業秘密の点もあってわからない点もありますが、調査を進め、対応を提案していきたい。その予防対策、災害時対策も盛り込みたいと考えている。 ・大容量泡放水砲の研究は、国内外の研究機関と協力して進める。地震時のオーバーフローとその後の火災は、すでに苫小牧市(H15.9)で、経験済みであるが、タンク火災の消火で包含されると考えている。 |
| 9 | A | 科学物質の火災爆発防止と消火は重要性が高まっている課題であり、現場で役立つ研究成果が生まれることを期待したい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ご理解いただきありがとうございます。本研究は、研究のレベルを維持すると共に、常に現場対応を考えて行っている。引き続き期待に添う研究をさせていただきたい。 |
| 10 | A | (なし) | |
| 11 | A | (なし) | |